

人が人に出会い、風景に出会う場所をつくる ルピシアニセコヴィレッジ新社屋

有限会社ナスカー級建築事務所 狩野 広行



世界のお茶専門店ルピシアは、羊蹄山が一望できるニセコ町の地に新社屋を完成させ、2023年3月13日より業務を開始しました。新社屋には道産カラマツの構造用集成材および道産カラマツのCLTが用いられています。

ニセコ町の垂直積雪量の建築設計条件は、幌加内町の250cmに次ぐ230cm。旭川市の130cmの2倍近くになります。そのような地理的条件の中で開放的な空間を実現するため、集成材とCLT、CLTとCLTの接合部分の構造実験を通じて、耐力が高く、破壊性状の良い接合方法の確認が行われています。

今回、建築プロジェクトの中心担った狩野氏に、建築計画を中心に建物のご紹介をお願いしました。

1. 建築計画

1.1 ネットワークの核となるハイブリッド・ワークプレイス

国内・海外を合わせて100以上の店舗を持つルピシアのヘッドクォーターを、東京から羊蹄山やニセコアンブリを間近に望む自然豊かなこの地に移転する計画です。新本社を取り巻く5万坪の土地には、ビール工房、野菜茶工場がすでに建設されており、今後は、従業員住居群に加えて、茶畑やハーブ園に囲まれて会員顧客が宿泊可能なロッジを建設するほか、豊かな水源を活用した親水公園を整備して、一般ゲストも入園可能な地域に開かれたニセコヴィレッジとする構想の一環です。

各地の店舗情報を一挙に集約して共有できるミーティングルーム、在宅勤務やオフィス勤務、フレックス・タイムやABW (Activity Based Working) などの多彩な勤務形態に対応する、柔軟で快適な「ハイブリッド・ワークプレイス」を企図しました。ネットワーク環境を整備し、リモートワークの可能性を広げると同時に、直にこの場所を訪れ、人や風景に出会うことの魅力を高める空間づくりに努めています。

1.2 創造性を喚起する多様なワークプレイスの実現

オフィス空間は勤務する場所であると同時に、1日の長い時間を過ごす生活の空間でもあります。また、同じ時間と空間を共にする仲間とのコラボレーションのための空間でもあります。できるだけ多くの出会いを生み、それらを多様なイノベーションにつなげていくためには、滞在する人々の創造性を喚起する大らかで開放性に富んだデザイン、勤務中の人のストレスを減じ、豊かに五感に訴えかける空間の質が必要と考え、北海道産の木材を使った集成材、CLTを現しにした木架構を採用しています。

どこまでも続くような奥行きと広がりをもつ円環状の平面形や中庭の存在が、内外の空間に大きなワンルームのような一体感をもたらし、人々の交流や共同体の意識を醸成します。一人ひとりのワーカースタッフにとって心地よい場所を見出し、そこに陣取ることによって、空間の各所に多様性が生まれ、それがまた次なる場所の選択や、会話のきっかけを生み出します。

屋内の各所から見える周囲の風景は、円環であるがゆえに方位による変化が生まれ、また自然光の移ろいによって時間の経過を知り、執務のオンとオフの切り替えなどにリズムを与えてくれます。入り口に近い比較的パブリックなゾーンから、奥に進むに従って次第に執務に集中できるエリアへと移行し、さらにその奥にはミーティングルームやコールセンター、ラボ的なブレンディングルームなどの個室、倉庫やトイレ、機械室などのバックアップ機能が配置されています。

中庭には水が張られて憩いの場所となり、冬には雪が降り積もって、そこから眺める羊蹄山の姿とともに、四季折々に変化する表情をつくり出します。風景を見晴らす外周部ウィンドウや中庭に面するカウンター席のほか、執務エリア内に点在するコンセントレイト・ブース、気候のよい時にはランチミーティングもできる軒下空間や中庭など、創造性を喚起する多様な場所を用意しています。

1.3 合理的で安心安全なCLTと軸組在来工法のハイブリッド

ニセコ町の2mを超える積雪量と工期7カ月という厳しい条件を考慮して、木造在来工法に対し構成部材数を大幅に削減可能なCLT部材を用いた木造平屋建ての計画をたてました。円形平面により外壁面長さを短く、また内部仕上げを省いて足場や建方などの施工工程を簡略化することで工期を短縮しています。円形であることにより必要な水平耐力を外周壁のみで満足する計画としたために、室内に余計な耐震壁が不要で、フレキシブルで開放的なオフィス空間を実現しました。

放射状にカラマツ集成材の柱及び梁をかけ（写真1）、CLTを屋根及び外壁に配置（写真2、写真3）するシンプルな構成により、外周壁は集成材の柱とCLT部材によるラーメン架構を形成します。CLT部材の端部には曲げモーメントを生ずることからGIR接合^注を、せん断抵抗には既成金物を用いた接合部としています。



写真1 カラマツ集成材の梁の上にCLTを敷設



写真2 CLTの屋根

屋根においても室内側にはCLT面をそのまま露出させ（写真3）、美しく安価な接合方法によってCLT部材のロスを減らしています。



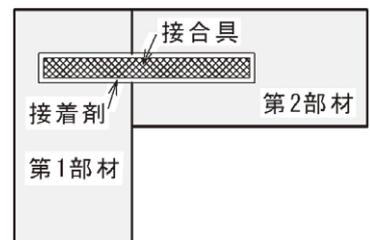
写真3 集成材の梁、柱、CLTの屋根、壁（撮影：浅川敏）

1.4 風土に根ざす、エコフレンドリーな建築

屋根は雪下ろしの不要な耐雪型とし、断熱材を十分に施して屋根の積雪自体も自然の断熱材としています。また、北海道立総合研究機構とも協働し、降雪風洞実験によりこの建築形状が危険な雪庇や吹き溜りを生じにくいことを確認しています。高窓を利用した自然通風・換気経路などについても、気象データ、風洞実験等から実証的な検討を行い、克雪を含む建築環境や空調熱源・方式についての検討を重ね、風土に根ざしたエコフレンドリーな建築を実現しました。

注：GIR接合

木材にあけた穴に棒状の接合具を挿入し、その空げきに接着剤を充てんする接合法。一般に、接合具にはボルトや丸鋼などの金属が用いられる。Glued in Rodの頭文字による。



2 建築物の形状・仕様

建物の形状・仕様を写真4, 図1, 表1に示します。

建物は半径16.5mの円形で、このうち建物幅は8m、残りの8.5mは中庭の屋外空間となっています。



写真4 建物全景 (撮影：浅川敏)

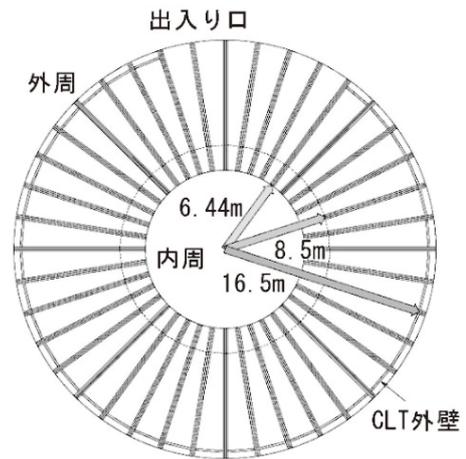


図1 建物の屋根概略

■参考資料

- 1) ルピシアPRESS RELEASE (2023年3月30日), <https://www.lupicia.co.jp/press/images/prrl230330.pdf>

表1 建物の概要

体制	発注者	株式会社ルピシアトレーディング		
	基本・実施設計	有限会社ナスカー級建築事務所		
	設計監理	古谷誠章＋有限会社ナスカー級建築事務所		
	構造	株式会社坂田涼太郎構造設計事務所		
	設備	有限会社 ZO 設計室 一級建築士事務所		
	施工	大成建設株式会社		
	CLT 供給者	銘建工業株式会社		
建築物の概要	用途	事務所		
	建設地	北海道虻田郡ニセコ町字羊蹄		
	構造・工法	木造軸組 + CLT 壁・屋根		
	階数	1		
	高さ(m)	5.127		
	軒高(m)	4.960		
	敷地面積(m ²)	1,623.43		
	建築面積(m ²)	681.05		
	延べ面積(m ²)	625.65		
木材	CLT 使用量(m ³)	加工前製品量 177.38 m ³ 加工後建築物使用量 163.64 m ³		
	CLT を除く木材使用量(m ³)	69.40 m ³ (柱・梁:カラマツ集成材, 外装:カラマツ製材)		
	CLT の仕様	(部位)	(寸法 / ラミナ構成 / 強度区分 / 樹種)	
		壁	150mm 厚/5 層 5 プライ/Mx90 相当/カラマツ	
屋根		150mm 厚/5 層 5 プライ/Mx90 相当/カラマツ		
工程	設計期間	2021年3月～2022年3月(12カ月)		
	施工期間	2022年7月～2023年2月(7.5カ月)		
	CLT 躯体施工期間	2022年9月中旬～10月中旬(4週間)		
	竣工年月日	2023年2月9日		